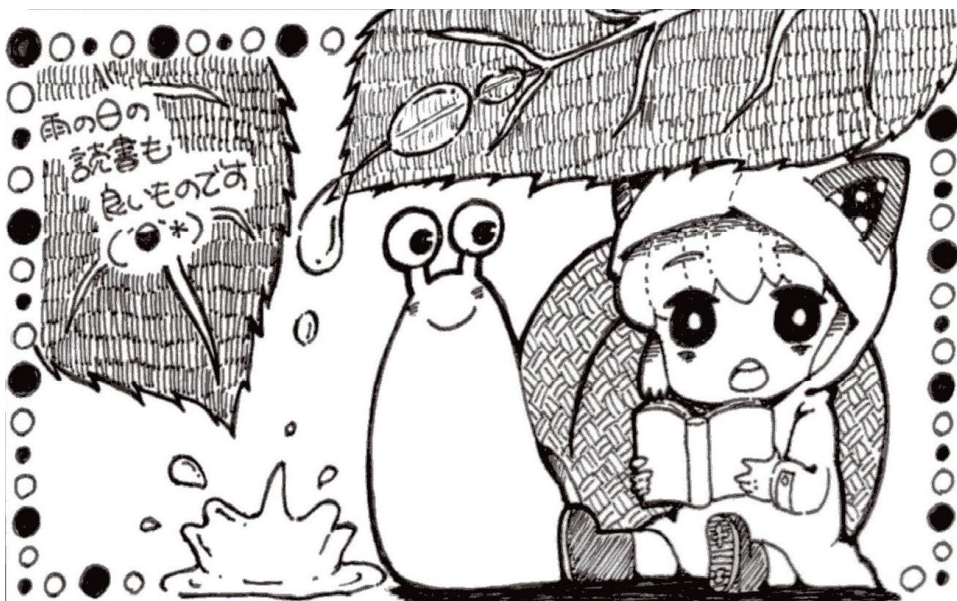


「 Wa・Ka・Ba 」

☆投稿紹介☆



あめおんなさんの作品

可愛いイラストをありがとうございます！

投稿していただいた作品は、情報誌『WaKaBa』に掲載させていただきます。みなさんの投稿お待ちしております。

☆イベント 報告☆

子ども本の寺子屋

「小嶋陽太郎トーク会」

6月12日(日)、松本在住の若手作家で、『^{きざ}気障でけっこうです』、『火星の話』、『おとめの流儀。』などの作品で話題の小嶋陽太郎さんとのトーク会を開催しました。今回のトーク会は、10代を対象にしたイベントで、小嶋さんからは小説家になるまでの経緯や、小説家という仕事に対するやりがいなどについて、お話を伺いました。「学生時代の時間は、とても貴重。後悔のないようにさまざまなことに挑戦してほしい」とのメッセージをいただきました。

参加されたみなさんは、小嶋さんの話に真剣に聞き入っている様子でした。質問にも丁寧にお答えいただくなど小嶋さんの人柄を肌で感じ取れるトーク会となりました。次回作のお話もしてくださいました。次回作も楽しみにしたいと思います！

小嶋さん、ご参加いただいたみなさん、ありがとうございました。



『^{きざ}気障で
けっこうです』



『火星の話』



『おとめの流儀。』



※小嶋さんを囲み話を聞いている様子

特集：18歳選挙始まります！

2015年6月、国会での公職選挙法の改正によって選挙で投票できる年齢が18歳に引き下げられることに決まりました。2016年7月10日に行われる参議院議員選挙から、全国の18、19歳のみなさん約240万人が投票できるようになりました。

そこで、今回は、18歳選挙を取り上げます！



☆選挙当日に投票へ行けない時は、当日より前に期日前投票という形で投票することができます。

Q どうして、20歳から18歳へ選挙年齢が引き下げられたの？

日本は少子高齢化、人口減少社会を迎え、この状況において、日本の未来を作り担う存在である10代のみなさんにもより政治に参加してもらいたいとの願いから、また、より早く選挙権を持つことにより社会の担い手であるという意識を若いうちから持ち、主体的に政治に関わる若者が増えて欲しいとの思いから引き下げられました。

また、直近の2014年の衆議院議員選挙では、年代別では常に20代が最低で32.58パーセントという数字でした。同年代の3人に1人しか投票していない状況です。若者の投票率が低くなると、若者の声は政治に届きにくくなってしまいます。その結果、若者に向けた政策が実現しにくくなり、実現するのに時間を要したりする可能性があります。

若者の投票率の低さも引き下げられた理由のひとつです。

・参考 『池上彰のみんなで作ろう18歳からの選挙』/池上 彰/文溪堂/2016

総務省 18歳選挙 <http://www.soumu.go.jp/18senkyo/>

期日前投票所

総合文化センター・広丘支所・吉田支所・榑川支所・塩尻東支所

期間

公示又は告示の日の翌日から選挙期日(投票日)の前日まで

時間

総合文化センター
午前8時30分～午後8時
広丘支所・吉田支所・榑川支所
・塩尻東支所
午前8時30分～午後7時

知ってた！？旬ネタ

5月26日～27日に「G7伊勢志摩サミット」が行われました。サミットという言葉は、ニュースや新聞などで見たり聞いたりしていたと思いますが、どんなことをしていたのか分かりますか？

G7サミットとは、日本、アメリカ、イギリス、フランス、ドイツ、イタリア、カナダの計7か国の首脳並びに欧州理事会議長及び欧州委員会委員長が参加して開催される首脳会議のことです。

今回は、日本の伊勢志摩で行われたため「G7伊勢志摩サミット」という愛称になりました。サミットに集まった7か国が国際社会で直面する課題について、よりよい世界を目指すために、一つのテーブルを囲みながら、自由な意見交換が行われました。

今回は、主に世界経済や政治、貿易。さらには環境、世界の平和について首脳宣言が出されたようです。

最終的にどんな決定があったのかはぜひ調べてみてください！

次回のG7サミットは、イタリアで行われる予定です。



・参考 G7

伊勢志摩サミット 2016

<http://www.g7ise-shimasummit.go.jp/>

☆お仕事ナビ

今回のナビゲーターは
詩人のウチダ ゴウさんです。



Q1. 仕事の内容を教えてください。



詩を書く仕事とデザインの仕事をしています。

詩を書く仕事は、大きく分けて、2種類。雑誌の連載やお店のディスプレイ、あるいは大切な人への贈り物として、誰かから依頼を受けて書く場合と、朗読したり書籍として販売したりするために、みずから書く場合があります。

デザインの仕事は多岐に渡ります。お店のシンボルマークやショップカード、包装紙、商品パッケージ、会社を始める人の名刺や封筒などのデザイン、ときには店名や社名のネーミングも行います。

Q3. やりがいを感じたり、楽しい・うれしいと思ったりするのは、どんなときですか。



詩を書く仕事のやりがいは、数えきれないほどあります。

多くの方が「詩を書いて生活することは無理だ」と思っているの、それを覆せるのはとても爽快です。また、多くの方が「詩はつまらない」と思っているの、ぼくの詩を読んだり聞いたりして「うわ、詩、結構イケてるじゃんか」と思わせることができたら、爽快です。詩を書くには繊細かつ豪快でなければならず、簡単だからこそとても難しく、ハードルがとても高いので、それを飛び越えるのはやっぱり爽快です。

デザインの仕事のやりがいも、たくさんあります。例えば、お店のシンボルマーク。シンボルマークは、そのお店の象徴、顔です。お店にとって最も重要な部分を任せられ依頼人の要求に応えること。ときには依頼人の要求を越える、さらに優れたものを提案すること。どれをとっても高い創造力と丁寧な観察力が求められるので、しびれます。

Q2. 仕事に就いたきっかけや、なりたかった理由を教えてください。

高校生の頃から詩のようなものを書いていましたが本気ではなく、詩人になりたいと思ったことは、その当時ありませんでした。また、子どもの頃から絵や工作は好きでしたが、デザイナーという仕事にも興味を持ったことはありませんでした。好きだったことは「字を綺麗に書く」こと。例えば、黒板に書かれたことと先生が喋ることを一言一句もらさず、綺麗な字で、綺麗なレイアウトで、一発でノートに書くのが楽しかったです。

そのまま詩を書き続けていたら、大学生の頃、あるコピーライターに「詩が書けるならキャッチコピーも書ける」と頼まれ、書くようになりました。さらに、デザインの方も頼まれ、デザインもやることになりました。

Q4. 中高生のとき好きだった本や熱中していたことなど教えてください。

中学生の頃は、小説も詩も読まず、代わりに野球漫画をよく読んでいました。高校生の頃は、村山由佳、江國香織などの恋愛小説ばかり読んでいました。

中学校の卒業を記念して、東北一人旅をしました。自分で調べ歩き回ってお気に入りの喫茶店や寺を探したり、自分で話しかけて目的地への行き方や土地の歴史を聞いたりする。孤独を乗り越えて、目の前の景色を自分の力で開いていく。この一人旅はとても楽しくて、高校卒業まで日本各地を巡りました。

☆ウチダゴウさんからみなさんへメッセージ



年齢を重ねれば重ねるほど経験や知識が増えるので、つい「わかった」気になります。「こうするべきだ」とか「これは絶対無理」と簡単に言います。大人にそう言われて怒る皆さんも大人になれば知らず知らずのうちに、同じような口ぐせになります。でも、「わかっている」ことは、「いまの時点で明らかになっていること」を「わかっている」だけです。「わかっていること」が、もしもこの世の全てでなかったとしたら、選択を誤ってしまうかもしれません。肝心なことに、どこまでが「この世の全て」か、わかり得ません。だとしたら、「ぼくらがわかっていること」の信頼性な

んてほぼないに等しいじゃないか、と高校生の頃に思いました。わかってしまわないこと。わからないでいること。わからないことを恐れないこと。わからないから、やってみること。やってみて、わかってやってみること。それを死ぬまでずっと続けること。そうしていれば、選択肢はいくらでも増え続け、皆さんの生き方もいくらでもあり得てくれます。社会や世界は、時々ぼくらの可能性を狭めようといじわるしてくる時があるので、そんな時は「お前が全てじゃないぜ」と軽くあしらって、自分の毎日を大事にしてください。

縁パークしおじり

産地の歴史と特色

木曾漆器の主な産地は、木曾平沢と奈良井です。産地の歴史は、江戸時代以前にまでさかのぼるといわれています。江戸時代には、尾張藩に利用を許されたヒノキなどの木材を使った曲物（まげもの）や櫛（くし）などの細工物（さいくもの）にウルシの樹液を塗った製品を作り、中山道を使って出荷していました。

明治時代以降に地元で取れる下地材料の錆土（さびつち）を発見し、木曾春慶（しゅんけい）、木曾堆朱（ついしゅ）、塗分け呂色（ろいろ）などの塗り技法を開発するとともに、時代の移り変わりの中で、宗和膳（そうわぜん）、そば道具、座卓、大型家具など様々な主力製品を生み出すことにより、日本を代表する漆器産地に成長しました。

1998年の長野冬季オリンピックメダルには、木曾漆器の技術が使われました。伝統的な技術を守りつつも、現代の生活に合った製品を生み出す工夫によって、木曾漆器は、塩尻市の地域ブランドのひとつになっています。

・参考文献：『木曾・榎川村誌 第3巻 近世 櫛物と宿でくらす人々
/榎川村誌編纂委員会 編/長野県木曾郡榎川村/1998』ほか

今回のテーマ

木曾漆器



曲物に漆塗りを施した弁当箱



長野冬季オリンピックメダル

編集後記:

情報誌『WaKa aBa』は、図書館職員が協力して記事を書いています。今月から、新しく青少年チームに入ってくれた清水さんのコラムも始まりました。十代のみなさんが興味をもって、楽しく、役立ててもらえる情報誌を目指して、これからも頑張っていきます！
(上野)



特集

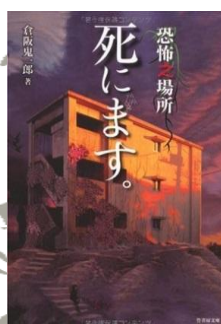
暑い夏でも涼くなる！？おすすめ恐怖小説！

今月から、新担当の清水さんが毎号テーマにそっておすすめ本をご紹介します♪



『自選恐怖小説集 霧が晴れた時』
小松左京 著/角川書店

日本恐怖小説界に今なお絶大な影響を与えつづけているホラー短編の金字塔といわれる作品。名作、「くだんのはは」収録。



『死にます。恐怖の場所』
倉阪鬼一郎/竹書房

著者が、不動産屋の女性から聞き出した恐怖物件の怪談を元に書いた作品。あなたが今いる場所は大丈夫ですか？



『てのひら怪談 百怪繚乱篇』
加門七海ほか編/ポプラ社

怪異はあなたのそばに潜んでいる…。たった2ページに綴られる様々な怪異。怖くて不思議な全百話が収録されています。